久能さん(福島大付小)ら最高賞

「三汀賞」俳句コンテスト

入賞作を展示

来月2日まで郡山

鏑木次長から表彰を受ける久能さん(左)

郡山市ゆかりの作家で俳人の久米正雄の俳号「三汀(さんてい)」を冠した俳句コンテスト「三汀賞」の入賞者が決まった。最高賞の三汀賞に小学生の部の久能和佳さん(福島大付4年)らが選ばれた。

こおりやま文学の森資料館の主催。全国39都道府県と中国から1万3711句の応募があった。

久能さんの作品は「下駄箱に漢字のわたし春の朝」。一般は堀卓さん(千葉県松戸市)の「教科書も今はカラフル微苦笑忌」、高校生の部は田村陽子さん(あさか開成2年)の「父想い一人ですする心太」、中学生の部は小磯里奈さん(郡山二3年)の「バイオリン弦張りかえる夏の果」が三汀賞に輝いた。

表彰式は2日、郡山市のミューカルがくと館で行われ、鏑木辰男市文化スポーツ部次長兼文化振興課長が久能さんらに表彰状などを手渡した。

入賞作品は3月2日まで、市内のこおりやま文学の森資料館に展示されている。観覧料は一般200円、高校・大学生100円、中学生以下と65歳以上、障害者手帳の所有者は無料。開館時間午前10時から午後5時(入館は午後4時30分)まで。月曜休館。

入賞者は次の通り。

◇一般▽三汀賞＝堀卓(千葉県)▽優秀賞＝佐久間教子(郡山)▽佳作＝三上昭俊、帰山久子(郡山)▽はなかつみ賞＝君島忍(郡山)

◇高校▽三汀賞＝田村陽子(あさか開成)▽優秀賞＝須田隼斗(郡山東)▽佳作＝松本太一(星陵)、塙美優(あさか開成)▽はなかつみ賞＝小野莉瑚(郡山東)▽学校賞＝郡山東

◇中学生▽三汀賞＝小磯里奈(郡山二)▽優秀賞＝荒川陸斗(大槻)▽佳作＝岡田泰貴(立教池袋)、小林真唯子(郡山二)▽はなかつみ賞＝木野晴仁(郡山六)▽学校賞＝立教池袋

◇小学生▽三汀賞＝久能和佳(福島大付)▽優秀賞＝高垣侑里(開成)▽佳作＝長英輝(桃見台)、松本寛太(芳山)▽はなかつみ賞＝桑名優空(大槻)▽学校賞＝一箕

持続可能な福島の復興へ

8日、講演や意見交換

福島

シンポジウム「福島と日本をかきまぜる－ふるさと再生と人間性の回復」は8日午後1時30分から、福島市の福島グリーンパレスで開かれる。参加無料。

急激な人口減少や東日本大震災の第2期復興・創生期間が2025(令和7)年度で終了するのを見据え、持続可能な福島の復興や地域創生を考える目的。福島大地域未来デザインセンターが企画し、ふくしま連携復興センターが共催した。

シンポジウム参加を呼びかけるチラシ

震災を機に生まれ、生産者と消費者を直接つなげる産直アプリを運営する「雨風太陽」(岩手県)の高橋博之社長が震災や能登半島地震の復興に関わる経験を踏まえて福島の復興や地方創生に必要な取り組みを講演する。川内村でクラフトジンを醸造する大島草太さん(福島大卒)や楢葉町の児童と能登支援活動に取り組む文部科学省CSマイスターの猿渡智衛さんらが本県の復興と人間性の回復についてパネルディスカッションを繰り広げる。

申し込みフォームに事前申請が必要。定員は100人。問い合わせはセンター 電話024(504)2834へ。

申し込みフォームにつながるQRコード

緊急一時支援 全国波及へ

6日、ネットワーク設立シンポ

自治体職員ら対象

緊急一時支援全国ネットワークの設立シンポジウムは6日午前10時からオンラインで開かれる。自治体や社会福祉協議会などの職員らが対象で参加費無料。

「属性を問わない緊急一時支援」の全国波及のための調査研究及び実践ガイドの作成、セミナー開催、ネットワーク構築事業委員会の主催。DVの被害者や生活困窮者らが安心して日常生活を送れるように支援する「緊急一時支援」について、全国的な関係者の交流の場としてネットワークを設ける。

シンポジウムでは、構築事業委員長の高橋誠一東北福祉大総合福祉学部教授や全国各地で緊急一時支援に取り組む団体の代表や職員らが「今こそ、求められる緊急一時支援」をテーマに意見交換する。

申し込み、問い合わせはNPO法人全国コミュニティライフサポートセンター 電話022(727)8731へ。

シンポジウムの申し込みQRコード

福島での農業経験に感謝

インドネシアの研修生、県庁訪問

研修の感想などを語るアディさん(中央)

インドネシアから海外農業研修生として来県しているクルニアワン・アディさん(24)は1月31日、県庁を訪れ、貝羽敦司県農林水産部政策監に県内での研修の感想を語った。

アディさんは昨年4月から三春町で農業を営む大内俊昌さんの農場でキュウリやトマト、カブなど品目で農業研修を受けてきた。2月16日で県内での研修を終えるため県庁を訪問した。

アディさんは「研修で皆さんが親切にいろいろと教えてくれた。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を日本語で語った。県内でスキーを初めて経験したことや日本のカレーがおいしかったことなど思い出も振り返った。受け入れ農家の大内さんは「最初の1カ月ほどはとても心

精神科の医療を市民講座で紹介

福島

精神科医療について語る三浦主任教授

精神疾患の人たちを支える社会について考える市民講座「誰もがその人らしく生きるために」は1日、福島市の福島グリーンパレスで開かれた。

福島医大看護学部と訪問看護ステーションりんく(福島市)の共同研究事業。約50人が受講した。

同大医学部神経精神医学講座の三浦至主任教授が「精神科医療に

県人材育成基金に20万円

東京の不動産事業ムゲンエステート 福銀私募債で

東京都で不動産買い取り再販事業を手がける「ムゲンエステート」が「ふくぎん『ふくしま応援寄付型私募債』」を発行したのに伴い、福島銀行は1月27日、県グローバル人材育成基金に20万円を寄付した。

贈呈式は都内の県東京事務所で行われ、ムゲンエステートの佐藤博明上席執行役員管理本部長兼財務部長が大沼博文県教育長に目録を手渡した。福島銀行大宮支店の河野邦明支店長が同席した。

ムゲンエステートは本県の地域活性化などに貢献したいと、企業からの手数料の一部を学校や施設に寄付している福島銀行の私募債を発行した。

左から大沼、佐藤、河野の各氏

福祉避難所に理学療法士 ↓ 健康リスク低減の可能性

福医大の阿部研究員ら論文

福島医大放射線健康管理学講座の阿部暁樹研究員らの研究グループは、急性期の福祉避難所の対応に理学療法士を取り入れることで避難者の健康リスクを低減させる可能性があるとの論文をまとめた。

研究グループは能登半島地震発生後の昨年1月9日から13日までの5日間、石川県輪島市の福祉避難所で10歳未満から100歳以上までの避難者22人の支援活動を実施した。避難者の身体検査の結果、肋骨(ろっこつ)骨折や足の外傷などの医療措置が必要な3人を特定し、連続的な医療ケアにつなげることができた。ベッドの配置替えなどを通して個別の身体機能に応じた環境整備を進め、フレイル予防に一定の効果を見いだした。

研究成果は昨年7月に国際誌に掲載された。阿部氏は「福祉避難所にはより多くの理学療法士を配置すべきだ」としている。

福島民報 きょうの地方版
fukushima minpo-online
オンライン新聞にすべて掲載
購読申し込み

いわき	障害者の絵画レンタル開始
相双	本因坊戦予選で敦賀七段V
会津	若松市データ連携基盤移行へ
県南	ふたば未来中バド部顧問講演
郡山	15日、暮らしの手続き相談を
県北	福島で救急搬送の共同訓練

スギ・ヒノキ花粉予報掲載

福島民報は4日付から県内12カ所のスギ・ヒノキ花粉予報と前日の花粉飛散数の掲載を始めた。

予報は「非常に多い」「やや多い」「多い」「少ない」の4段階。飛散数は観測された1平方㌢当たりの花粉数(スギとヒノキの合計)となる。飛散数のデータがない日もある。福島、伊達、田村、喜多方、相馬の5市と浪江町は予報のみを掲載する。

日本気象協会東北支社と県内各医療機関などが協力している。

スギ・ヒノキ 花粉予報

地点	予報
福島	少ない
伊達	少ない
二本松	少ない
(枡病院)	―
田村	少ない
郡山	少ない
(江東微生物研究所)	―
須賀川	少ない
(須賀川病院)	0.0
矢吹	少ない
(会田病院)	―
塙	少ない
(塙厚生病院)	―
喜多方	少ない
いわき	少ない
(江東微生物研究所)	―
浪江	少ない
相馬	少ない

日本気象協会・各施設協力 数値は前日観測(個数／㎠)